



国臨協関信

HPアドレス [http:// kanshinshibu.org](http://kanshinshibu.org)

平成29年11月

事務局 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
発行者 峰岸正明
編集委員 吉田茂久・中尾知江美・柳 進也
印刷所 東洋印刷株式会社
☎ 03-3352-7443

第45回国臨協関信支部学会報告

国立成育医療研究センター 工 藤 元 記

平成29年9月2日（土）国立国際医療研究センターにおいて第45回国臨協関信支部学会が開催されました。九州をはじめ各地で記録的な大雨による被害が発生した中、関東や東北でも8月上旬から雨が降り続き、東京都心では21日間連続降水を記録いたしました。夏らしい暑い日もそんなに多くなかったように思います。学会当日も朝から小雨が降り、少し肌寒い様な天候ではありましたが、参加者の熱気が雨雲を払ったのか午前中には雨は上がり快晴となりました。私達を取り巻く医療環境は、学会当日の天気のように思えます。今は雨雲の中のように先の見通しが悪い状態ですが、今年の6月には医療法が改正されるなどし、私達が新しいことに着実に取り組んでいくならば雨雲が無くなり快晴になるのではないかと思います。

さて、今年の関信支部学会のメインテーマは「臨床検査の多様性を考える」とし、学会参加者は384名と多数の会員の皆様に参加していただきました。学会企画として、病理と生理部門から二人のルーチンアドバイザーの協力を得て2症例のR-CPCを開催致しました。参加者がR-CPC形式に慣れていないせいか、会場の雰囲気は穏やかでしたが大変有意義な内容となりました。

一般演題は53演題と多くの方に発表をしていただき今年のベスト口演賞は、12名の演者の方達が受賞しました。また、学会賞としては、学術奨励賞を国立成育医療センターの南澤ふみ子様、学会特別賞をNHOさいがた医療センターの島田朋幸様、新人賞は国立国際医療研究センター病院の花岡美里様が受賞致しました。地区会コーナーでは各地区会で素晴らしいポスターを作成して頂きましたが、厘差の結果で長野地区会が優秀賞を受賞いたしました。各賞は学会セレモニーにおいて3名の支部表彰受賞者とともに表彰いたしました。受賞された皆様のご活躍を期待するとともに、心よりお祝い申し上げます。さらにご多忙のところ学会セレモニーにご臨席いただいた来賓の各先生方より学会開催のお祝いの言葉を頂き感謝申し上げます。学会終了後の意見交換会では、盛況裏に会員相互の親睦を深めることが出来たと思っております。

最後に学会運営にあたりご協力いただきました実務員の皆様、国立国際医療研究センターの皆様そして会員の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



多数のご参加ありがとうございます

地区会コーナー優秀賞を受賞して



NHOまつもと医療センター松本病院
浅 川 和 也

平成29年9月2日に開催された国臨協関信支部学会ポスター展示において、「地区会コーナー優秀賞」を受賞することができました。大変ありがとうございます。ポスター展示は優秀賞が設けられたこともあり、年々各地区会で趣向を凝らした個性豊かで優れたポスターが展示されるようになりました。

「今年は優秀賞を!」と話し合いを始めたのですが、中々良い案が出ず昨年度のポスターと睨めっこでした。そんな中、まずはみんなの目に留まるようなインパクトのあるもので夏らしいものがないのではないかと意見がありました。そこでピンときたのが長野にはたくさんのお祭りがあり、施設で参加しているものもあるということでした。長野びんずる、上田わっしょい、松本ほんぼん、小諸ドカンショ等々あり、写真もただの集合写真ではなく、法被を使ったり、お祭りに参加した写真など使ったりなどして工夫をしました。制作しているなかで、地域と共に一丸となってイベントを盛り上げるということは素晴らしいことだと思いました。このポスターで、長野地区会も一丸となって関信支部学会を盛り上げたい、という思いが伝わればいいな

と思い制作しました。しかし作ってはみたものの、施設紹介が無いばかりか、全面にお祭り感が出てしまい、さすがにやり過ぎた、と思ったのですが、理事の中では意外に好評で、そのまま出展することになりました。

学会当日、展示コーナーに貼りだされた各地区会のポスターは、どこも創意工夫され素晴らしい内容となっていました。そんな中で優秀賞をいただくことができ光栄に思っています。この賞を励みに、長野地区会をさらに素晴らしく楽しい会にしていきたいと考えています。最後に関信支部役員をはじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。



第45回 国臨協関信支部学会『学会賞』選考委員会報告



国立国際医療研究センター国府台病院
小 川 勝

今年度の学会賞選考委員会は、8月10日に国立国際医療研究センターにおいて技師長協議会、国臨協本部、国臨協関信支部、ルーチンアドバイザー、千葉地区会、栃木地区会の代表者6名にて抄録による一次選考を行いました。抄録選考の基準としては、内容の独創性、内容の新鮮さ、抄録の構成、臨床的な有用性、全体的な評価の5項目及び、ルーチンアドバイザーの評価も参考にして学術奨励賞候補4題、特別賞候補5題、新人賞候補3題を選出しました。そして9月2日（学会当日）の演題発表において、時間配分、スライドの状況、発表態度、質疑応答の態度を評価する2次選考を行い、各賞を決定しました。

新人賞は「生理検査室における患者満足度に対するアンケート」を発表された、国立国際医療研究センター病院の花岡美里先生が選出されました。本演題の概要は、患者満足度に対するアンケート調査を実施し、生理検査室に対する患者の客観的な評価として把握すると共に、アンケート調査結果を活用して有効な業務改善を牽引する点で優れた演題と評価されました。今後も定期的にアンケート調査を継続していただきたいと思います。

特別賞は「超音波検査装置のプロープグリップに関する工夫」を発表された、NHOさいがた医療センターの島田朋幸先生が選出されました。プロープグリップにテニス用

のグリップテープを巻き滑り難くする事で、検者の身体的負担が軽減されている点が有意義であり、また細菌検査を実施し、感染対策まで踏み込んで考察した点で、優れた演題であると評価されました。

学術奨励賞は「胎児総肺静脈還流異常のスクリーニングにおける肺静脈血流波形、左房と大動脈間距離測定の有用性」を発表された、国立成育医療研究センターの南澤ふみ子先生が選出されました。総肺静脈還流異常症は出生早期死亡を高率に伴う疾患であり、外科的治療がその第一選択となります。本検討は産科スクリーニング検査において、当該疾患を有する患児の検出率を向上するものであり、臨床的に有用であると評価されました。

今後、更なる検討を加えて論文投稿していただけることを期待します。

全体的な感想としましては、今回新人部門選出演題の評価が高く、学会特別賞候補5題中3題が新人部門より選出されました。これらは、各施設において新人教育に力を入れている事がうかがえました。また今回53題の抄録すべて読ませていただきましたが、抄録の書き方としてはやはり、「目的」「方法」「結果」「考察」「まとめ」が基本であり、いかに読みやすく、解りやすい抄録が書けるのが、高評価につながるものと思われました。今後の展望として、各施設の主任技師の皆様に指導力を発揮して頂き、より多くの優れた演題が関信支部学会の場で討議されることを願います。

受賞されました先生方、また施設の皆様、おめでとうございます。

学術奨励賞を受賞して



国立成育医療研究センター
南 澤 ふみ子

この度、第45回国臨協関信支部学会におきまして学術奨励賞という名誉ある賞を頂き光栄に思っております。

今回「総肺静脈還流異常のスクリーニングにおける肺静脈血

流波形、左房・下行大動脈間の距離測定の有用性」の発表を致しました。私にとって超音波検査は未知の領域で検査開始当初はよく夢の中で、心臓に追い駆けられたり冷汗をかきながら検査をしている自分にあせて目が覚めたりの連続でした。検査をする度に見落とし、見逃しをしていないか緊張と不安でいっぱいでした。発表した総肺静脈還流異常は、胎生8週頃に肺血管叢が左房につながらず、肺静脈が体静脈と切り離されなかった先天異常です。この疾患は胎児診断が大変困難とされていて、当院でも見逃した事例が起き、再発防止として今回の方法に改善されました。困難だと思う事でも、周りの人からのアドバイスや協力により違った見方・考え方ができ克服する事ができます。また、失敗しても頑張ろうという前向きの気持ちになる事もできます。「継続は力なり」という言葉通り、コツコツと理解し積み上げてきた事が受賞につながったと思います。

この症例のお子さんは健やかに成長されています。見逃した1例の時は本当に悲しく悔しい思いをしましたが、今後大切な命を守る様に精進していきたいと思えます。受賞にあたり、私に新たな道を開いて下さった松林前技師長、背中を押して下さった前島副技師長、色々教えて下さる胎児診療科の先生方、大川技師長はじめ検査部の皆様に心よりお礼を申し上げます。

最後に、学会を開催するにあたり御尽力下さいました国臨協関信支部の皆様にご感謝申し上げます。



学会特別賞を受賞して



NHOさいがた医療センター
島 田 朋 幸

平成29年9月2日(土)、国立国際医療研究センターで開催された、第45回国臨協関信支部学会において、学会特別賞を受賞できたこと大変光栄に思います。

発表させて頂いた演題は「超音波検査装置のプロブグリッ

プに関する工夫」です。当院は麻痺・固縮・拘縮などを有する患者や重症心身障がい児(者)の検査が主であるため、無理な体勢により検者の身体各所に負担が掛かることがより多く、実際に検査実務者が「手首が痛い」と言っているところを聞き、どうしたら手首や手指の負担が減るのだろうと考えたのが事の発端でした。そこでプロブグリッブに着目し、フィット感を上げるために試行錯誤した末にたどり着いたのがテニスラケット用のグリッブテープの利用です。結果、様々なメリットが得られ、検査実務者の負担の軽減に繋げることができたと考えます。またグリッブテープは様々な種類があるため、今後も使用感など更なる検討課題として取り組んでいきたいと思っております。

私は2年前、急な扁桃炎のため本学会で予定していた発表ができませんでした。そのため沢山の方に多大なるご迷惑をかけ、自分自身情けなく、悔しい思いをしました。今回、再チャレンジしてこの様な結果が出せたことは大変感慨深く、今後の糧として大切にしていきたいです。

最後になりましたが、学会を主催するに当たり、ご尽力頂きました峰岸学会長ならびに国臨協関信支部役員の皆様には厚く御礼を申し上げますと共に、未熟な私に成長するチャンスを与え、支えてくださった山崎技師長、平原副技師長に感謝致します。これからも頂いた賞に恥じぬよう自己研鑽し、自身の目標に向かい邁進していきたいと思えます。



新人賞を受賞して



国立国際医療研究センター病院
花岡 美里

この度、第45回国臨協関信支部学会において、新人賞を頂き誠にありがとうございました。新人賞は受賞できる機会が限られておりますので大変光栄に存じます。

私は「生理検査室における患者満足度に対するアンケート」という演題を発表させて頂きました。このアンケートは2回に分けて実施し、1回目では待ち時間やスタッフの接遇面などについての意見を伺いました。結果より、産科超音波検査について多数の意見があり、それらに対する改善策を医師や産科外来のスタッフに提示し、承認を頂いた後に実行しました。その後産科超音波検査を受ける患者さんを対象に2回目のアンケートを実施し、改善点に対する評価やさらなる問題点を見出しました。今回のアンケートでは、このように継続的な改善を行っていくPDCAサイクルについて理解すると共に、その重要性についても知ることができました。今後も定期的にアンケートを実施し、患者サービスに努めていきたいと考えております。

今回の受賞は技師長をはじめ副技師長、主任、生理検査室のスタッフ、そして中央検査部の皆様によるご指導のおかげです。当日は初めての学会発表でしたのでとても緊張しましたが、先輩からアドバイスと応援の言葉を頂戴し、とても満足度の高い発表を行うことができました。

そして2回のアンケートでは、配布をした患者さんの90%以上からご回答を頂き、回答率の高さに驚きつつ、患者さんの声から改善へと導きましたことを大変感謝しております。今後も患者さんからの声を大切に、安心・安全にそして満足して検査を受けて頂けるよう、スタッフ一同努力していきたいと存じます。

最後になりましたが、本学会を開催するにあたりご尽力いただきました、峰岸支部長をはじめ関信支部役員の皆様および関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。



ベスト口演賞を受賞して



国立がん研究センター東病院
笹沼 美香

この度、第45回国臨協関信支部学会にて、「当院における企業治験の受託体制と臨床研究検査室での取り組み」について発表した結果ベスト口演賞を頂いたこと、大変嬉しく思います。内容は、企業治験に対する当院独自のチーム体制と臨床研究検査室における治験業務の取り組みについて発表致しました。学会準備には早めに取り掛かりましたが、この発表内容を皆様にどの様に理解して頂けるか悩み、前日まで試行錯誤を重ねながらスライドの手直しを行いました。初めての学会発表であった為、緊張のあまり普段は使わない訛り口調が出てしまっていたようで、後から知り合いに「訛っていたよ」と言われました。少し恥ずかしい思いをしましたが、結果的に良い効果をもたらしてくれたのではないかと内心思っております(笑)。

余談ですが、私の出身は、有村架純さんが主人公を務めたNHK連続テレビ小説「ひよっこ」が舞台となった茨城県です。今の季節には、黄金色に輝いた稲穂一面の田園風景が広がっています。美味しいお米やお酒、栗などの特産物が揃っていますので、是非一度足を運んで頂けたらと思います。

今回の発表を通して、抄録の書き方やスライド作成およびプレゼンテーション発表の方法など学ばせて頂きました。この賞を頂いたのは、私一人の力だけではなく、技師長をはじめとする多くの職員の方々のご指導およびご協力のおかげであると思います。皆様には、心より感謝しております。これからも、この賞を励みにして専門学会などで発表ができるよう、よりいっそう努力して参りたいと思います。最後に、学会開催にあたり、ご尽力下さいました国臨協関信支部役員および関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



ベスト口演賞一覧

● 第一会場	03	定量 FDP 試薬の基礎的検討 国立病院機構東埼玉病院 ●阿部寿哉
	07	当院における長期脳波ビデオ同時記録検査の現状 国立病院機構茨川医療センター ●高橋 遥
	13	地域に根付いた病院・検査科を目指して 国立病院機構鎌倉医療センター ●津川志保
	16	超音波検査装置のプロブグリップに関する工夫 国立病院機構さいが医療センター ●島田朋幸
● 第二会場	20	結核菌群およびリファンピシン耐性遺伝子検出キット Xpert MTB/RIF の有用性について 国立国際医療研究センター病院 ●百田亮史
	26	PIVKA- II の院内導入に向けた基礎的検討 国立病院機構高崎総合医療センター ●飯田あみみ
	32	当院におけるアルブミン製剤の国内自給推進に向けた取り組み 国立病院機構千葉医療センター ●市川 遼
	36	当院における企業治験の受託体制と臨床研究検査室での取り組み 国立がん研究センター東病院 ●笹沼美香
● 第三会場	40	てんかん患者における発作時 MEG の有用性について 国立精神・神経医療研究センター病院 ●小野マリ子
	43	呼吸一酸化窒素濃度 (FeNO) 測定における測定機器の比較検討 国立病院機構相模原病院 ●錦織春菜
	46	腹部超音波検査が診断に有用であった壊疽性胆嚢炎の1例 国立国際医療研究センター国府台病院 ●伊藤里美
	50	心臓超音波検査で偶然診断し得た大動脈弁四尖弁の1例 国立病院機構災害医療センター ●小此木莉奈

支部表彰を受賞して



NHO下総精神医療センター 桑 村 良 隆

この度、第45回国臨協関信支部学会において支部表彰を頂き有難う御座います。推薦して頂いた千葉地区会並びに関信支部役員の皆様にお礼を申し上げます。昭和57年1月国立病院医療センターに採用されて以来7施設、最後まで務める事が出来るのも、多くの先輩と良き同僚と後輩に恵まれご指導ご助言を頂いたおかげと感謝しております

関信支部との関りは平成4年、5年の2年間事務局と会計を担当させていただきました。「来年度の関信支部理事をやってみないか?と技師長から話があり、若輩者の私に関信支部理事を務まるのか心配でしたが「困った事、分からない事があったら何時でも言って来い」の言葉に勇気づけられ支部理事を引き受ける決心をしたのを覚えています。関信支部理事を担当したのは、関信支部

学会20年目の節目の年でした。「第20回厚臨協関信支部記念学会開催を目標に準備が進められ学会場は科学技術館、特別講演は元日本テレビアナウンサーにお願いすることになりました。記念誌作成は第1回からの学会抄録と各施設職員の写真を掲載し、支部学会の20年間の歩みを感じさせる内容の学会誌とする方向で決定しました。この記念すべき学会開催と記念誌作成に微力ながら携わる事が出来たことは思い出深く記憶に残っています。

独立行政法人へ移行し十数年が経過しました。病院経営（評価委員会）では常に業績アップが求められています。それらの要求に対応するには検査科職員の理解と協力が必要です。若い技師の方々のパワーに期待しています。最後にご指導いただいた国臨協関信支部役員ならびに会員の皆様の方々の益々のご活躍を祈念しお礼の言葉とさせていただきます。



NHO新潟病院 齊 間 理

この度、国臨協関信支部表彰を因らずも受賞の栄に浴し推薦して頂いた新潟地区会と関信支部役員の皆様に感謝致します。最初の地区会役員としては出身地の長野地区会に所属していた頃でした。長野県は面積が大きな県ですので理事会開催時は移動時間、冬季には降雪等に苦慮した事がありました。何よりも他施設の会員との交流がとても楽しかった事が思い出されます。印象に残っている支部学会の発表としては、20数年前、今では抗凝固剤や試薬・測定機器が進歩して見かける事が少なくなりましたが、「EDTA依存性偽血小板減少症」についての知見を発表した時にplts凝集塊再現実験を分単位でスミアを引く作業を同僚に手伝って貰ったのですが、時間的に間に合わず失敗と思わず苦笑した事を思い出しました。プレゼン用スライド作成も当時

はマッキントッシュが良くできたソフトでしたが、その分パソコンが大変高価でした。当然、個人では購入は出来ず持っている医師の所へ押しかけたりで楽しかった事を思い出します。検体分析機器の進歩は著しく、入職した当時は石英ガラスセルに反応液をデカントして一本一本比色計で測っていましたが、今はフルオートでボタンをポン。現在に飛ぶと、それらで一層効率化できた「時間」は、今後より多様性が求められる我々臨床検査技師にとって重要となる業務である「チーム医療参画」と更に「病棟進出」に生かして行けると思います。2025年問題もまじかで我々の世界も逐次変化して行くと思われます。先を見据えて前進して行く事を期待しています。最後に国臨協関信支部の益々のご活躍とご発展を祈念してお礼の言葉と致します。ありがとうございました。



国立療養所栗生楽泉園 清 水 紀 臣

この度は国臨協関信支部表彰に推薦頂き有り難う御座いました。群馬地区会、峰岸会長をはじめ関信支部の皆様へ厚くお礼を申し上げます。思い出せば旧長野病院（上山田温泉）に採用されてからの30年余りが、あっという間に過ぎてしまいました。当時は事務官、看護師との距離も近く検査科の先輩技師に限らず事務長、師長さんから厳しい指導を毎日のように頂きましたが、そのことが技師人生の礎になっているように思います。技師としての歩みの中で、私は病理（細胞診断）の専門ではありませんが、数年目に経験した尿沈渣中の腎癌、その後20年ほどして喀痰培養の検体で見つけた肺胞上皮癌は、いずれも臨床が疑っていない症例で癌細胞だと判断できたわけではありません。「おかしいぞ」「正常とは違う」と判断しただけですが、その後の精査で悪性と診断された症例を経験したことは、技師とし

てこの上ない喜びでした。自分が患者なら、どんな技師に検査してもらいたいのか?と考えたとき・・・若い技師の方々には、こんな症例に早くであって欲しいものだと思います。国臨協支部学会では自分が発表していた頃と比べると、現在の若手技師の発表と内容は素晴らしいものがあり、優秀な技師が多いと実感しています。主任となり後進の指導を考えたとき、自らが発表、論文を書くことを経験し、指導が出来るように研鑽することを勧めたい。自らが経験していなければ、指導するのは難しいと考えるからです。技術職種である以上、専門分野の確立と学術面での経験は必要不可欠です。個々の技師がそれぞれの分野で研鑽を積み、各施設、地区の纏まりが良くなれば、国臨協の将来は明るいものになるでしょう。

会員皆様の更なる発展を期待して、お礼とさせていただきます。有り難う御座いました。



NHO横浜医療センター 日 吾 雅 宜

このたび、第45回国臨協関信支部学会セレモニーにおいて支部表彰をいただきました。ご推薦いただいた神奈川県地区会、関信支部の皆様へ深く感謝申し上げます。

私は国立がん研究センター中央病院の賃金職員をスタートに41年間勤務させていただきました。その間、単身赴任は勿論のこと、ハンセン病施設にも勤務し貴重な経験を得ることができました。

さて、臨床検査、特に血液や生化学検査などの自動分析装置は急速な発展を遂げ、今ではワンフロアの検査室は測定機器で埋め尽くされています。その光景は見事の一言です。しかし、これらの機器を操作するのは「ヒト」である私たち検査技師です。正しい精度が保持されているか、故障を未然に防ぐメンテナンスが成されているのか、故障した場合に迅速に復旧できる技量を持つ

ているのか、などの管理が「ヒト」に求められる重要な事項です。そして、インシデント（ヒューマンエラー）を起こすのは「ヒト」であり、また、起こさないように対策を講じるのも「ヒト」です。さらに医療の質の向上を支えるのも「ヒト」です。この「ヒト」をいかに育てるかの「人材育成」が大きなテーマとなっています。

私は、この41年間、人材に恵まれ、大過なく経過することができました。私に関わって下さったすべての皆様に深く感謝申し上げます。

もうひとつ感じることは、検査室を支えているのは管理職ではなく、汗水流して現場で働いている検査技師の皆様だということです。そのことに常に感謝し、謙虚に接しなければならないと考えます。

最後に、国臨協関信支部、役員および会員の皆様の方々の益々のご発展をお祈り申し上げます

第45回国臨協関信支部学会 学会企画 『検査データから考える』に参加して(病理)NHO水戸医療センター
須 賀 拓 也

平成29年9月2日（土）に国立国際医療研究センターにて開催された第45回国臨協関信支部学会学会企画「検査データから考える」に参加させていただきました。事前に配布されていた資料を基に、自施設で検討会を開き、「信州大学病院でのルーチン検査の読み方・考え方」の13項目に則って考えをまとめ、当日に臨みました。

当日は病理担当ルーチンアドバイザーの澁木康雄先生が壇上に立ち、事前に配布されたデータをそれぞれで考えやすいように提示され、データから患者さんがどのような状態であったかを会場に問いかけるような形で進行していきました。会場の意見が出た後に各分野のアドバイザーの先生方から検査値の読み方を、一つ一つ紐解くように説明をしていただきました。事前の予想と近いものはより深く、考えが足らなかったことについてはポイントを押さえた解説により、理解が

深まりました。

一通りの検討が終わった後、死亡後に行われた剖検から診断されたことや、死因、また検査値にどのような影響があったかが解説されました。

病名としては多発性内分泌腫瘍症（multiple endocrin neoplasia;MEN）の1型とされ、原発性副甲状腺機能亢進症、下垂体腺腫があり、後腹膜腫瘍は副腎皮質癌で肺への転移が認められ、肝多発陰影はガストリノーマの再発ということが組織像の比較により推測できると教えていただきました。

有名だけど実際には現場では遭遇しない珍しい症例について、どのようにデータに向き合い、考えていくかを経験させていただいた貴重な検討会となったと感じました。

最後になりますが、ご多忙の中症例提示とご講演下さいました澁木先生、各分野の解説をして下さった先生方、並びに企画運営していただきました国臨協関信支部役員の皆様に心より感謝申し上げます。

第45回国臨協関信支部学会 学会企画 『検査データから考える』に参加して(生理)NHO村山医療センター
土 井 淳 志

平成29年9月2日に国立国際医療研究センター5階大会議室にて開催された国臨協関信支部学会企画「検査データから考える」（RAによるR-CPC形式）に参加しました。事前配布資料を基に当院検査科でも活発な議論を行い、考え得る臨床状態や見るべきポイントなどについて検討しました。当日は藤本先生による時系列グラフを交えた解説を聞かせて頂き、今回のR-CPCのように継時的に検査結果を解析し、系統的に考えることで患者病態の変化を把握出来ることが分かりました。またUNが腎外因子の影響を受け易いことなど、各検査項目の特性についても改めて学ばせて頂きました。自分が担当している検査だけではなく、それ以外の検査結果を把握する事や、検査技師間の情報共有、さらに病院内における他部門の医療スタッフとの連携が、今後ますます重要となっており、検査データから得られる情報をよく理解し、役立てていく必要があります。

今回の企画を通して、検査データから患者病態を推定し読み取るための基本的な読み方・考え方を経験することが出来ました。また、患者病態の変化を考える時に複数の検査項目を総合的に組み合わせることで有用性が増すことを実感しました。今後は日常業務においても今回経験したことを意識し、検査データと合わせて患者病態を正しく把握出来るよう判断能力向上に努めていきたいと思えます。最後になりましたが、今回このような機会を与えて頂いた関信支部役員の皆様、症例を提示して頂いた先生方に心より感謝申し上げます。



平成29年度関信支部ビアパーティに参加して



国立国際医療研究センター国府台病院
栗 原 光 樹

平成 29 年 7 月 29 日(土) 国臨協関信支部主催のビアパーティが新宿の「旬鮮酒場天狗」にて開催されました。当日は蒸し暑く、ビールがとてもおいしく感じる絶好のビアパーティ日和となり、多くの会員の皆様に参加され、会場は大盛り上がりでした。初めてビアパーティに参加させていただいた私は少し緊張していましたが、新人研修会で知り合った同期の仲間やお世話になった諸先輩方との再会、次々に運ばれてくるおいしい料理、絶え間なく注がれるビールを飲みながら徐々に緊張が和らいでいき、ビアパーティを楽しむことができました。会が進むにつれて多くの方々が自らの席を離れ、知り合い同士でお話をされており、私も先輩や副技師長とご一緒にたくさんの方にビールを注いでご挨拶をさせていただくことができました。初対面にも関わらず気さくに話しかけてくださる方が非常に多く、国臨協の皆様の温かさを感じました。次に今回のような会が開催された時には、自然に楽しく皆様と交流することができると思いました。気が付けばあっという間に 2 時間が経過し、先輩方の経験談や

様々な考え方を学べた、とても有意義な時間を過ごす事ができました。また、何より人事交流の素晴らしさを実感できる大変良い機会でした。

今回、初めてビアパーティに参加をして思ったことは、普段は一施設の技師として業務に就かせていただいておりますが、自分の施設のみならず、国臨協全体の先輩方や仲間と共に、同じ目標に向かい日々の業務に当たっているのだということを強く実感し、心強く思いました。

最後になりましたが、このような会を企画していただきました関信支部役員の皆様に深く感謝申し上げます。来年も是非参加したいと思っております。ありがとうございました。



第2回関信支部主催研修会に参加して



NHO埼玉病院
石 井 証 吾

平成 29 年 7 月 29 日(土) に JCHO 東京山手メディカルセンターにおいて、第 2 回関信支部研修会が開催され、参加させていただきました。

最初の講演は、株式会社 CGI の水越和則氏から「QMS 概論 - 検査室 QMS を正しく理解するために」と題してご講演をしていただきました。ISO とはどのような規格なのか。また、組織が品質マネジメントシステムを実践するとともに、その有効性を継続的に改善していくためにはどういったことが必要か、といったことなどを分かり易く解説していただき、その重要性や運用・改善の難しさを改めて認識することが出来ました。

続いて、株式会社 バイオ・ラッド・ラボラトリーズの飯島壮悟氏から「実践精度管理検査プロセスの信頼性を担保するために」と題してご講演をしていただきました。内容は精度管理



に関する基礎的なことから、より実践的なことまでを解説していただきました。私は病理検査を担当しているので、精度管理に触れる機会の少ないためとても勉強になる内容でした。

現在、医療機関では ISO15189 の取得が重要な課題になっており、私の所属する埼玉病院でも今年度中の取得に向けてスタッフ一丸となって取り組んでいる最中です。ISO は取得したらそれで終わりではなく、継続的に QMS の維持と改善に努めていかなくてはなりません。まだまだ勉強不足な自分にとっては、今回の講演は非常に有意義な内容でした。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演をいただいた水越和則様、飯島壮悟様ならびに研修会の開催にご尽力していただいた関信支部関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



地区会だより

関信支部長野地区会定期総会・研修会を終えて



NHO信州上田医療センター
小 山 知 夏

平成29年6月24日(土) NHO 信州上田医療センター2階第一会議室において第32回国臨協関信支部長野地区会研修会・定期総会が開催されました。来賓として関東信越グループの林臨床検査専門職、国臨協関信支部から山崎副支部長、中谷理事にご臨席を賜りました。

はじめに学術研修会として、小諸高原病院の齊藤美穂子先生より「インフルエンザウイルス院内感染 当院の状況」についてご講演を頂きました。インフルエンザウイルスの院内感染の状況や発生した時の対応、終息に至るまでを詳細にわかりやすく説明して頂きました。次に日本光電工業株式会社の齊藤昌伸先生より「緊急時の心電図の読み方」についてご講演を頂きました。最後に林臨床検査専門職から「伝達事項ならびに会員の皆様に向けて」と題し、機構の概要、沿革や国立病院機構職員の各種認定資格の修得状況や主任選考試験、検査技師としての心得などご講演頂きました。早く業務に慣れて認定資格等の取得を目指して、日々自己研鑽していきたいと思われました。

続いて、地区会総会が行われました。齊藤会長の挨拶に始まり、来賓の山崎副支部長から関信支部の活動報告をいただきました。そして平成28



年度経過報告や会計報告と次年度事業方針や会則改正案、予算案等の審議及び新役員選出が滞りなく行われ、無事に閉会しました。

総会終了後には信州上田医療センター7階「レストラングリーンヒル」において懇親会が行われました。和やかな雰囲気の中、各施設の会員の方々にご挨拶ができ、親睦を深める貴重な時間を過ごすことが出来ました。

後になりましたが、お忙しい中ご講演を頂いた齊藤美穂子先生、齊藤昌伸先生、林臨床検査専門職、ご臨席いただいた山崎副支部長、中谷理事、さらにこの会を企画、開催してくださいました長野地区会役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成29年度 長野地区会 理事

地区会長	金子 司	(NHO 信州上田医療センター)
理 事	浅川 和也	(NHO まつもと医療センター松本病院)
理 事	植松 明和	(NHO まつもと医療センター中込松本病院)
理 事	齊藤 美穂子	(NHO 小諸高原病院)
理 事	古田 学	(NHO 東長野病院)



関信支部千葉地区会定期総会・研修会を終えて



国立がん研究センター東病院
中 西 愛 弓

平成29年7月1日(土) 国立国際医療研究センター国府台病院において、第36回国臨協関信支部千葉地区会定期総会・研修会が開催されました。来賓として、関東信越グループより林臨床検査専門職、国臨協関信支部より吉田副支部長と岡村常任理事にご臨席賜りました。

定期総会では議長に選出されたNHO千葉東病院の小池谷子副技師長による進行のもと、平成28年度各種報告、平成29年度事業案、および新役員の選出が審議され、会員の承認をもって無事終了いたしました。その後、岡村常任理事より関信支部活動内容などが紹介されました。

続いて、研修会では「伝達講習」と題して、林臨床検査専門職から国立病院機構の概要、各種認定試験の取得状況、主任選考試験についてなど多くの内容をご講演いただきました。自身のスキルアップのために研修や認定試験を積極的に受けていきたいと感じました。

続いてつくばiLaboratory LLPの奥田勲先生より「ISO 15189の最新情報について」ご講演いただきました。医療法改正で検体検査室の精度保障について明記されたこと、臨床研究中核病院の認定や国際標準検



体管理加算においてISO 15189取得が要項であることなど詳しく説明していただきました。当施設はISO 15189の認定取得しているため、今回学んだことを念頭に置きながら品質の向上に努め、より信頼のある検査業務を目指していきたいと思いました。

総会・研修会終了後には懇親会が行われ、多くの会員が集まり和気藹々とした雰囲気の中、親睦を深めることができました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演をいただいた、奥田先生、林臨床検査専門職、またご臨席賜りました吉田副支部長、岡村常任理事、企画・開催してくださいました千葉地区会理事の皆様厚く御礼申し上げます。

平成29年度 千葉地区会 理事

会 長	小川 勝	(国立国際医療研究センター国府台病院)
副 会 長	沼田 ますみ	(NHO下総精神医療センター)
理 事	説田 愛弓	(国立がん研究センター東病院)
理 事	石川 政志	(NHO千葉東病院)
理 事	市川 遼	(NHO千葉医療センター)
理 事	富樫 瑞輝	(NHO下志津病院)



地区会だより

関信支部神奈川地区会文化交流会に参加して



NHO神奈川病院
加 山 新 菜

平成 29 年 6 月 17 日 (土) 神奈川地区会文化交流会が横浜中華街で開催され、26 名の参加がありました。当日は天候にも恵まれ、初夏を感じさせる陽気となりました。

はじめに「揚州飯店(ようしゅうはんてん)」というお店へ行き、肉まん・餃子の手作り体験をしました。どちらも用意された具材を、それぞれの生地で包むという体験でした。一見、簡単そうでしたが、実際に包んでみると具材の量を調節するのが難しく、包むと外へ出てきてしまい悪戦苦闘しました。自分で作った肉まんや餃子は想像していたよりも大きく、食べごたえも十分!! 見た目はいわゆる「インスタ映え」するような出来ではありませんでしたが、味を重視した、とても満足できるものとなりました。

次に場所を移し「品珍閣(ひんちんかく)」というお店で懇親会が行われました。ここではオーダー式 150 品食べ放題ということで本場の中華料理に舌鼓を打ちました。美味しい料理と他施設の方々と貴重な会話を楽しむ中、今年度神奈川地区会に入ってこられた方々の挨拶があり、その後、施設ごとに一人ずつ自己紹介を行いました。同じ神奈川地区会の会員として、今後も皆様と協力していきたいと感じました。

その後、「関帝廟(かんていびょう)」という建物の前で集合写真を撮り、神奈川地区会文化交流会は終了となりました。他 施設の方々と交流ができ、とても充実した 1 日となりました。

た。また、神奈川といえば中華街というイメージがあるので、神奈川地区会ならではの文化交流会だと感じました。

最後になりましたが、今回の文化交流会を企画・開催してくださいました神奈川地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。



関信支部東京地区会文化交流会に参加して



NHO災害医療センター
関 口 和 也

平成 29 年 5 月 20 日(土) に東京都立川市の立川防災館にて平成 28 年度国臨協関信支部東京地区会文化交流会が開催されました。

近年自然災害が多い中、東京地区会では普段から防災に対する知識や行動力を高めておこうと今回「楽しみながら防災体験」が企画

され、64 名の参加のもと、3 班に分かれ 4 つの体験を行いました。

まず地震体験では映像を見て地震に対する備えや対応を学んだうえ実際に地震体験装置で震度 5 強の揺れや阪神淡路大震災・東日本大震災と同じ地震を体験し、その恐ろしさや対策や対応を身に着けることが出来たと思います。

煙体験では煙の特性や危険性を学び、正しい避難方法を理解した上で無害な煙が充満されている経路のデモを行い、実践的な体験をしました。

消火訓練では、消火器の種類や使い方を学び実際の火災をシミュレーションした大型スクリーンを相手に消火の体験をしました。

防災ミニシアターでは、首都直下型地震を想定した災害映像を視聴し、東日本大震災での教訓を学び災害に対する準備や心構えについて考えさせられました。

しかし、こうした貴重な体験も時間が過ぎ、普段何気なく生活していると、震災などの災害について、つい忘れがちになってしまいます。

震災はいつ起こるかわかりません。

こうしたことは定期的に振り返り、常に心にとどめておかねばならないことだと強く感じました。

また、防災体験の後は懇親会が開催され、他施設との交流の場として大変盛り上がりしました。4 月の人事異動で他地区から異動されてきた方や今年採用された方との交流の場ができ、様々なお話をすることでまたひとつ考え方の幅が広がれたことは大きな収穫となりました。

最後になりますが、お忙しい中今回の東京地区会文化交流会を企画・開催して下さいました理事の皆様には厚く御礼申し上げます。



会員のひろば

NHO栃木医療センター 病院祭



NHO栃木医療センター
有 次 耕 三

栃木医療センターでは、毎年6月に病院祭を行っています。

この催しは、ゆるキャラ、大道芸人、ご当地アイドルを呼んで地域住民を巻き込む大イベントとなります。

今年は、フラダンスの愛好家たちによる見事な踊りで祭りをさらに盛り上げていただきました。

検査科もこの祭りのメインの催しであるキッザニアという東京のキッザニアを丸パクリした催しの主力部隊として活躍しています。

キッザニアの内容は、子供たちに医者になってもらい患者さんへの問診、検査のための採血、レントゲン撮影、検査結果から病気の診断、薬の処方までを模擬体験してもらうものです。

単なるゲーム的なものではなく当院の医師が実際に子



供達に問診の仕方や検査結果の読み方まで指導する本格的なものになっています。

これを目当てに来る子供さん達も多くキッザニアは、毎回好評で定員10名の枠はすぐに埋まってしまいます。

当日は、休日にもかかわらず検査科職員は、全員参加で前の日からの準備を含めて大忙しの日となりますが、みんな学園祭のノリで楽しんでいます。

応募してくれた子供達の受付やキッザニアの説明、病院の中の誘導、採血の指導などが検査科の担当です。

中でも採血指導は、手取り足取り、日ごろ鍛えた採血の技術子供達に熱く教えます。子供達の好奇心に満ちたキラキラした目に圧倒されながら自分たちの医療という職業について再認識する日でもあります。

また、この催しは地域の人達とのふれあいにも一役かっており毎回多くの人達が病院を訪れてくれます。

日ごろ、敷居の高い病院ですが催し物に参加したり、ご当地アイドルのコンサートを見たりお腹がすけば職員の手作りのカレーライスや焼きそばを食べることが出来ます。

あまりこういう催し物を行っている病院は無いと思います。

私も赴任してきて初めて参加した時には少しびっくりしました。

病院をゆるキャラがcaつぱしたり、アイドルが踊って歌ったりする風景は少し異様にも映りますが、細かいことはあまり気にしない栃木の県民性なのだと今は、理解してこの病院祭を誰よりも楽しんでいます。

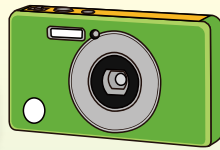


国臨協関信支部今後の予定

* 予定は変更となる場合がありますのでご了承願います。

月	日	曜日	学 術 部	地 区 会	そ の 他	広 報
11月	1	水				支部ニュース
	10	金			第71回国立病院総合医学会 (香川)	
	11	土			第71回国立病院総合医学会 (香川)	
	18	土		栃木地区会定期総会		
12月	2	土	第3回 研修会			

写真募集



関信支部ニュース第212号（新年号）の表紙写真を
会員の皆様から募集いたします。

採用された方には粗品を差し上げますので、奮っ
てご応募ください。（募集期限は11月24日（金）まで）

宛 先：NHO埼玉病院 臨床検査科 柳 進也
T E L：048-462-1101（内線：3313、PHS：1310）
E-mail：shyanagi@wakho.hosp.go.jp

国臨協関信支部主催 第3回 研修会

『認知症』について

日 時：平成29年12月2日（土）12:30受付
13:00～15:00（予定）

場 所：国立国際医療研究センター
研究所会議室A・B

講 師：①国立国際医療研究センター病院
中村良幸 主任

内 容：認知症と技師との関わり、
認知症の概要など

講 師：②日本光電学術担当者

内 容：認知症検査に関する説明、
認知症プログラムと認知症検査の
関係性など

人 事 異 動

【平成 29 年 9 月 30 日付 退職】

氏 名	旧施設名	旧職名
原 田 哲 也	相模原病院	主任技師
八 木 翔 吾	千葉東病院	技 師

【平成 29 年 10 月 1 日付 昇任】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
阿久津 朋 子	渋川医療センター	主任技師	東京医療センター	技 師

【平成 29 年 10 月 1 日付 配置換え】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
杉 本 淳 一	相 模 原 病 院	主任技師	信州上田医療センター	主任技師
関 口 友 一	信州上田医療センター	主任技師	渋川医療センター	主任技師

【平成 28 年 10 月 1 日付 採用】

氏 名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
吉 井 聖 恵	渋川医療センター	技 師	国立がん研究センター中央病院	非常勤
藤 井 勇 樹	東京医療センター	技 師	東京医療センター	非常勤

編 集
後 記

第45回国臨協関信支部学会は多くの会員の
皆様にご参加いただきましてありがとうございます。
今年の学会企画「検査データから考える」
RAによるR-CPC形式はいかがだったでしょうか？秋は「読書」
「紅葉」「運動」「食欲」など、楽しいイベントが盛り沢山で
すね。美味しい秋を満喫しましょう。

広報部 中尾 知江美

祭45回国臨協関信支部学会 学会企画 解答編

【学会企画】「検査データから考える」(病理部門)

病理部門RA
榎 木 康 雄

既往に膵臓の機能性内分泌腫瘍があり、後腹膜腫瘍や肺、肝臓の多発陰影の診断および治療・緩和が目的として来院された症例を提示した。

病理には、肺門部リンパ節を経気管支的に穿刺した細胞診が提出されたが、稀有な細胞像を呈していたため、初診時のデータからどのような腫瘍が存在する可能性があるのかを推定してもらい、死亡前日のデータからは、どのような状態に陥っていたかを考察してもらった。

初診時データからは、ガストリンやNSEが高値であることから膵ガストリノーマの再発が疑われ、PTHとCaが高値であることから副甲状腺機能亢進症が疑われた。また、プロラクチン高値で下垂体腺腫の可能性も疑われ、コルチゾール、アルドステロン高値からは副腎皮質腫瘍が疑われた。このような状況から、多発性内分泌腫瘍症1型（以下

MEN1）が推定された。HbA1cやグルコアルブミン、BNPの高値もコルチゾール高値によるクッシング症候群の影響としても矛盾はないと考察された。

死亡前日のデータは、CRP上昇傾向、WBC正常範囲内であるが、桿状核球の割合が優位に高くなり、左方移動を起こしていることから細菌感染が強く疑われた。

剖検の結果、肺や肝臓に多発していた腫瘍は全て副腎皮質癌の転移であった。また、肺には膿瘍が形成されており、Klebsiella oxytocaやCitrrobacter koseri、Candida albicansなどが検出された。死因については、副腎皮質癌の急速な進展と肝・肺転移、高コルチゾール状態で惹起された細菌性の重度の巣状肺炎による呼吸機能の低下などが考えられた。

MEN1のような病態は、複数の項目を検討することによって診断が可能となる。病理検査においてもラボデータを参考にすることで、細胞診断の一助となることを再認識できた一例であった。

【学会企画】「検査データから考える」(生理部門)

生理部門RA
藤 本 敬 久

信州大学病院でのルーチン検査の読み方(13項目)に従って判読を行いました。私と当院スタッフで行ったものであり、誤っている可能性があることをご了承ください。以下に症例経過と検査データ判読要旨を記載します。

症例経過要旨

- ①4/17 肺炎球菌による細菌性髄膜炎で入院。
くも膜下出血(血栓性髄膜炎)を併発。
- ②翌日、感染性心内膜炎に伴う重症僧帽弁逆流発症。
抗菌薬ABPC開始。
- ③好酸球性肺炎発症(被疑薬 ABPC)。
- ④5/23 抗菌薬変更ABPCからIPM/CS。
- ⑤6/6肺炎像軽快せず、ステロイド治療開始。
- ⑥6/15 肺炎像軽快に至らず、抗菌薬中止。
- ⑦肺炎像軽快、ステロイド漸減。
- ⑧8/8 僧帽弁人工弁置換術。
- ⑨8/31 退院。

検査データ判読要旨

- ①栄 養 状 態；入院時ChEが基準範囲であるため、最近まで栄養状態は悪くなかったと推察。
CRP高値で炎症による消費の影響あり。
Alb低値で推移後、6/3から回復傾向。
- ②全 身 状 態；Albの推移から判断すると、入院時より横ばいで6/3から回復傾向。
- ③細 菌 感 染 症；入院時に左方移動を認めることから細

菌感染あり。5/2からWBC増加傾向(Eo増加による)を認めた。

- ④細菌感染重症度；左方移動、CRPより、軽度～中等度。
CRP高値の割に左方移動はそれほどでもない。
- ⑤敗血症有無；Plt低値から上昇傾向であり、敗血症は無い(または入院時に敗血症あってPltが最低となっている部分を捉えている可能性もあり)。Fib低下は炎症(CRP)改善に伴うものと推察。
- ⑥腎 臓 病 態；腎機能障害は無い。第3・4病日のUN上昇は腎外性因子(心不全)によるものを推察。
- ⑦肝 臓 病 態；ASTより肝細胞障害あり。Albより肝合成能は6/3以降良好(入院時は炎症による消費の影響あり判断は困難と考えた)。T-Bilより代謝能低下あり。
- ⑧胆 管 病 態；ALP、 γ -GTP、Bilより管内胆汁うっ滞の病態と推察。
- ⑨細 胞 傷 害；肝細胞障害あり。循環不全によるものとみられるLDアイソザイムのパターンを示す。
- ⑩貧 血；Fe、TIBC、フェリチンから慢性炎症に伴う貧血を推察。
- ⑪凝固線溶異常；DIC診断基準からDIC(-)。
- ⑫電 解 質 異 常；低Na血症。心不全に伴う細胞外液量増加を推察。
- ⑬動脈血ガス；呼吸性アルカローシス。

参考図書 本田孝行 (2012)「ワンランク上の検査値の読み方・考え方-ルーチン検査から病態変化を見抜く-」